

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 09年1月

～大幅減産が続く中、在庫調整進展の動きも

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 在庫が5ヵ月ぶりに低下

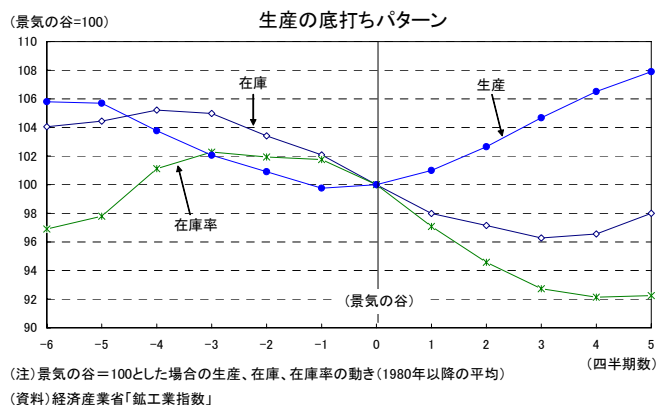
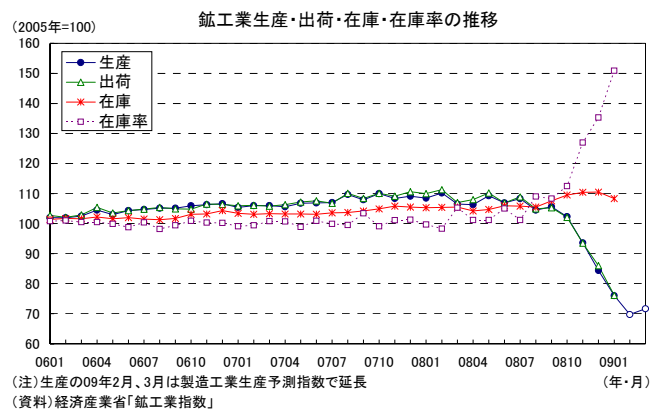
経済産業省が2月27日に公表した鉱工業指数によると、09年1月の鉱工業生産指数は前月比▲10.0%と4ヵ月連続の低下となり、市場予想（ロイター集計：前月比▲10.0%、当社予想は同▲12.6%）通りの結果となった。出荷指数は前月比▲11.4%と4ヵ月連続の低下、在庫指数は前月比▲2.0%と5ヵ月ぶりの低下となった。在庫率指数は前月比11.6%となり、この4ヵ月間で39.3%の大幅上昇となった。

1月の生産を業種別に見ると、輸出急減の影響から、輸送機械、一般機械がそれぞれ前月比▲17.3%、▲12.8%が前月からマイナス幅をさらに拡大したほか、在庫積み上がりが続いてきた電子部品・デバイスも前月比▲21.8%と大幅な低下となった。速報段階で公表される16業種のすべてが前月比で低下した。

生産は2ヵ月連続で前月比10%程度の急激な落ち込みとなったが、在庫指数が5ヵ月ぶりに低下したことは明るい材料のひとつだ。これまで在庫の大幅な積み上がりが続いてきた電子部品・デバイス、情報通信機械といったIT関連分野がそれぞれ前月比▲13.7%、同▲11.9%と大幅な減少となったのが目立つ。また、輸送機械は前月比では2.1%の増加となったものの、前年比では▲8.1%と4ヵ月連続で低下している。

過去の生産底打ちパターンを見ると、在庫が減少に転じてから2～3四半期後に生産が底打ちしている。

1-3月期の減産幅が10-12月期を上回ることはほぼ確実な状況だが、1-3月期の在庫が前期比で減少に転じるかどうか、生産の先行きを見る上で重要な鍵となるだろう。



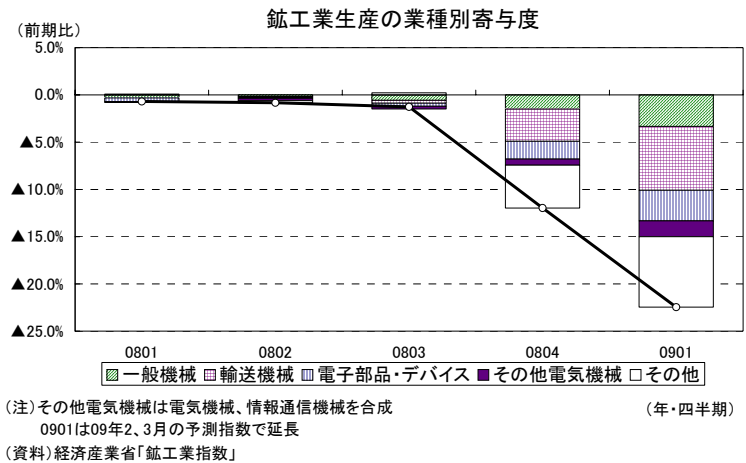
2. 1-3 月期の減産幅は前期比 20%を超える見込み

製造工業生産予測指数は、09年2月が前月比▲8.3%、3月が同2.8%となった。1月の実現率は▲5.1%、2月の予測修正率は▲8.7%と、生産計画の大幅な下方修正が続いているため、3月が実際に増加するかは微妙だが、計画(翌月見込み)とはいえ6ヵ月ぶりの増産見込みとなったことは、在庫調整がある程度進展していることを示したものと言えるだろう。

予測指数を業種別に見ると、歴史的な減産が続いている輸送機械は、1月実績の前月比▲17.3%に続き、2月も同▲26.8%と減産幅を拡大する計画となっている。2月の減産幅が予測指数通りとすると、昨年10月からの減産幅は6割近くに達することになる。3月は前月比6.8%と半年ぶりの増産が計画されている。

1月の生産指数を2月、3月の予測指数で先延ばしすると、09年1-3月期の生産指数は前期比▲22.4%の大幅低下となる。

生産計画の下方修正の動きが続いていることも考慮すれば、1-3月期は前期比▲20%を超える大幅減産となる可能性が高いが、4-6月期には減産ペースが緩やかとなることを見込まれる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。